

環境経営レポート

<2023年度版>

活動期間:2022年10月1日~2023年9月30日

佐久の豊かな自然を未来 に繋げよう!



作成日:2023年7月21日



®環境省
エコアクション21
認証番号0001283

長野県佐久市塩名田1068



株式 日本金属化工所
会社 JAPAN METAL PLATING

- 【目次】**
1. 事業活動の概要
 2. 環境経営方針
 3. 実施体制組織図
 4. 環境経営目標(中長期)と実績
 5. 環境経営目標の実績
 6. 活動の評価、次年度の取組
 7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価
 8. 代表者による全体の評価及び見直しと指示
 9. 活動事例

1. 事業活動の概要

■ 事業所名及び代表者

株式会社 日本金属化工所

■ 所在地

本社 〒399-8303 長野県佐久市塩名田1068

■ 環境保管理責任者及び担当者及び連絡先

環境管理責任者 代表取締役 中村守伸

連絡先 電話 0267-56-4331

Fax 0267-58-4333

E-mail nakamura@nikkin-nagano.co.jp

Homepage <http://nikkin-nagano.co.jp>

■ 事業活動の内容

各種電気めつき加工及び酸・アルカリによる各種表面処理

■ 事業の規模

資本金 40,000 万円

従業員数 40 名

床面積 1,203 m²

敷地面積 6,612 m²

■ 事業年度 10月1日～ 9月30日

■ エコアクション21認証取得日 2007年1月25日

登録番号 0001283

対象(認証登録)範囲 全組織・全活動

2. 環境経営方針

基本理念

私たちは環境問題が次世代にも及ぶ長期的な問題であることを認識し、健全な事業活動を通じて社会・経済の発展と地球環境の共存も目指し、持続可能な発展の実現に向けて努力致します。

環境経営方針

私たちの事業活動がめっき加工であり、電力・化学薬品を使い、廃棄物を排出することを踏まえ、環境負荷の低減及び事業を通じた環境改善への取組みを推進していきます。

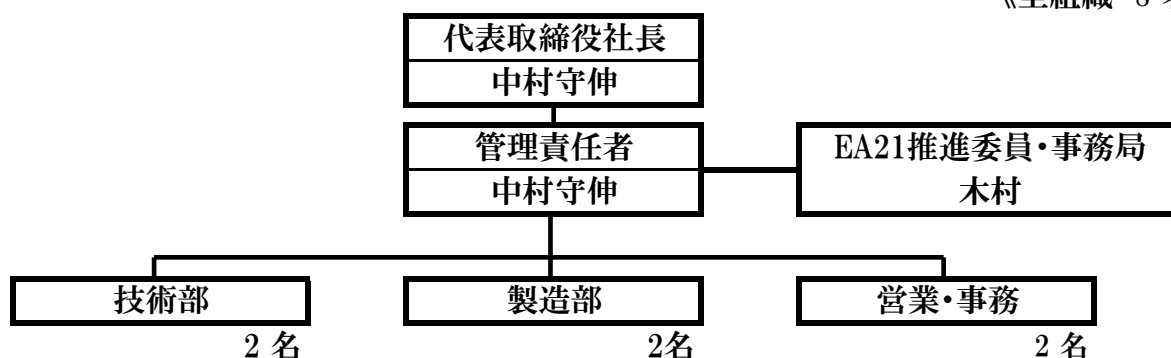
1. 環境保全への取組みを経営課題の一つに組み込みます。
2. 全ての事業活動において環境マネジメントシステムの継続的改善を行い、汚染の予防と環境保全に努めます。
3. 環境関連の規則、その他要求事項を遵守するとともに、必要に応じて自主管理基準を設定して環境保全に努めます。
4. 次の項目を中心に環境負荷を低減し、事業発展を目指します。
 - 1) 効率の良い設備を導入し、省エネ・省資源を実現する。
 - 2) 環境経営方針のもとで、目的・目標計画を定めて取組み、定期的な評価を通じて維持・改善と活動の見直しに努めます。
 - 3) 環境に影響を与える化学物質の使用削減など環境負荷の低減に取り組み、グリーン購入を推進いたします。
 - 4) 防犯、安全対策を万全にし、定常時・非常時・緊急時において環境に与える負荷が最小になるように可能な限り予防処置及び対策方法を定めます。
 - 5) 廃棄物の発生抑制・再利用・リサイクルに取り組み、循環型社会の構築に取り組みます。
5. 従業員に対して品質・環境教育及び啓蒙活動を行い、結局的な環境コミュニケーション活動を行います。
6. 社員一人ひとりが、それぞれの業務や市民としての立場を通じて気候変動対策や生物多様性保全を始めとした地球環境保全に貢献し、更に広く社会へ普及啓発を図ります。
7. 化学物質や廃棄物などによる事前環境の汚染と健康被害につながる環境リスクを予防します。

制定日：2006年10月1日

改定日：2018年10月1日

3 実施体制組織図

《全組織 8 名》



役割・責任及び権限一覧

担 当	権 限 及 び 実 行 内 容
代表取締役	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムに関するすべての責任と運用についての権限を持つ ・環境経営システムの構築・運用・管理に必要な資源を用意する ・統括者及び管理責任者を任命、活動を指示する ・環境経営方針の策定/見直し及び従業員に周知させる ・活動全体の評価と見直しを行い、次期活動を指示する
管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムを構築・実行、及び運営管理 ・法令/条例及び業界等の確認及び遵守状況をチェックする ・環境経営方針に基づき環境経営目標を設定し、活動計画を承認する ・活動の取組状況を監視/確認し、環境経営目標の達成状況を評価 ・問題点の是正、予防処置に対する指示と改善及び見直し ・活動の取り組み及び結果及び課題を代表者へ報告
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの運営に関する事務的処理 ・環境負荷及び取組の自己チェックを作成し、環境管理責任者へ報告する ・関連法規等の取りまとめ及び遵守状況チェックし、環境管理責任者へ報告する ・運用手順を確立させ、実施結果を集計して環境管理責任者へ報告する ・文書及び記録の管理と保管 ・外部コミュニケーション窓口及び内部コミュニケーションの運営管理 ・従業員及び関係者への教育訓練計画の作成と実行 ・特定された緊急事態に対するテスト・訓練の計画
各部門長	<ul style="list-style-type: none"> ・部門範囲内の環境経営目標及び活動計画の作成・実行と達成状況の報告 ・部門内の問題点の発見、是正及び予防処置を実行と報告
従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営方針/経営目標に沿った活動計画の実行及び異常時の報告 ・環境保全に関連する業務改善の提案

※全従業員は、当社に構築された環境経営システムを理解し、策定された環境経営方針の元目標の達成に向けて、環境活動計画に基づき、一致協力して環境への取組を行う。

5. 環境経営目標（中長期）

10月～9月

項目		単位	基準値 (2021年)	2022年目 標	2023年目 標	2024年目 標
二 酸 化 炭 素 削 減	CO2排出量	kg-CO2/百万円	1,492	1,477	1,344	1,331
		(%)	100%	99%	90%	89%
	電力	kWh	532,622	527,296	426,098	421,837
	ガソリン	ℓ	6,318	6,255	6,129	6,067
	A重油	ℓ	105,628	104,572	103,515	102,480
	軽油	ℓ	10,307	10,204	10,101	10,000
	灯油	ℓ	11,400	11,286	11,172	11,061
	LPG	kg	263	260	258	255
	一般廃棄物	kg	4,850	5,610	4,753	4,705
	産業廃棄物	kg	79,699	67,250	78,105	77,324
	水使用量	m ³	13,550	13,542	13,279	13,146

- ※1 中部電力(株) 2017年度 二酸化炭素調整後排出係数 0.472kg-CO2/kWhを使用
- ※2 会社周辺の清掃、ボランティア活動への参加回数、等
- ※3 全員集まっでの訓練は新型コロナウイルス拡散防止のため延期しました。

環境中期数値目標と結果の評価

生産量の増加で二酸化炭素の総排出量は増加したが、売上高当たりの排出量は低減し、活動の効果が現れている。又、他の目標項目においても、年間目標を達成できて良好な結果になった。

新型コロナウイルスの影響を受けて、全員参加での会議や集まりが出来なかったが、従業員一人ひとりの環境改善への意識が向上している。

今後、5S/省エネ活動等を推進して更なる効率化を目指すと共に太陽光発電システムの導入や廃棄物削減と化学物質の安全利用、危険/有害物質の使用廃止に努める。

5. 環境経営目標の実績

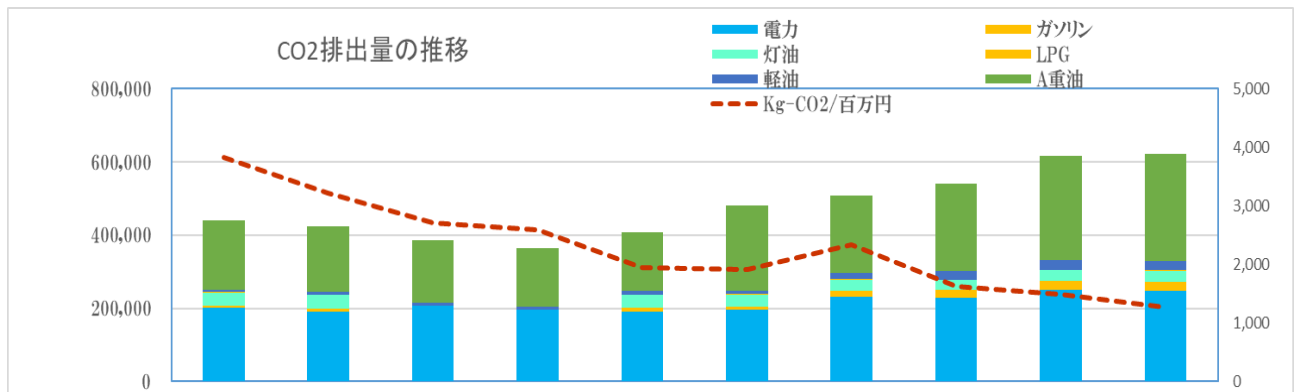
項目	単位	基準値 (2021年 度)	2023年度 目標値	
売上高	百万円	410	100%	410
CO2総排出量(kg-CO2)	kg-CO2	611,107	90%	549,996
	kg-CO2/百万円	1,492		
電力	kWh	532,622	80%	426,098
ガソリン	ℓ	6,318	80%	6,129
A重油	ℓ	105,628.0	80%	103,515
軽油	ℓ	10,306.7	80%	10,101
灯油	ℓ	11,400.4	80%	11,172
LPG	kg	263.0	98%	258
一般廃棄物	kg	4,850	99%	4,802
産業廃棄物	kg	79,699.0	99%	78,902
上水道	m ³	13,550.0	99%	13,415

： 二酸化炭素調整後排出係数 0.472kg-CO2/kWhを使用

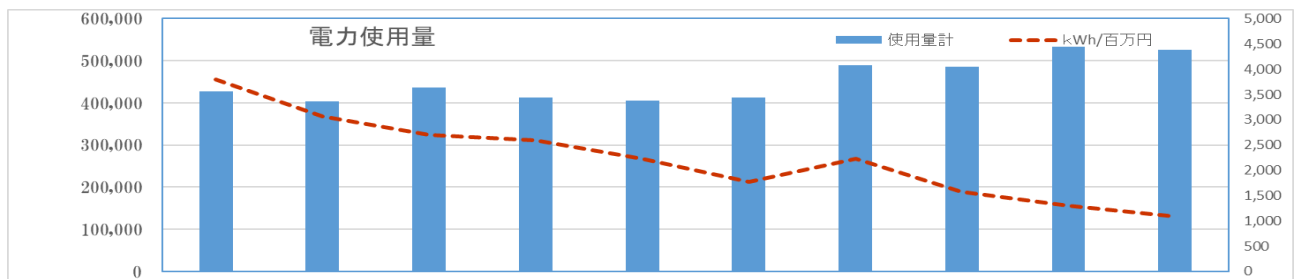
2023年度実績の評価

- (1) 電力
生産量増加にも関わらず使用量は削減された、太陽光発電システム導入の効果と考える。
- (2) A重油
生産量増加にも関わらず使用量は微増だった、ボイラー配管の故障箇所修理及びば高効率配管の効果と考える。
- (3) 軽油、ガソリン
期間中における使用量は微増だった、今後も削減に努める
- (4) 灯油
若干減少した。
- (5) 上水道
使用量は横這いだが効率は良くなった。
- (6) 産廃
仕事量の増加しているにも関わらず、廃棄物は減少した。

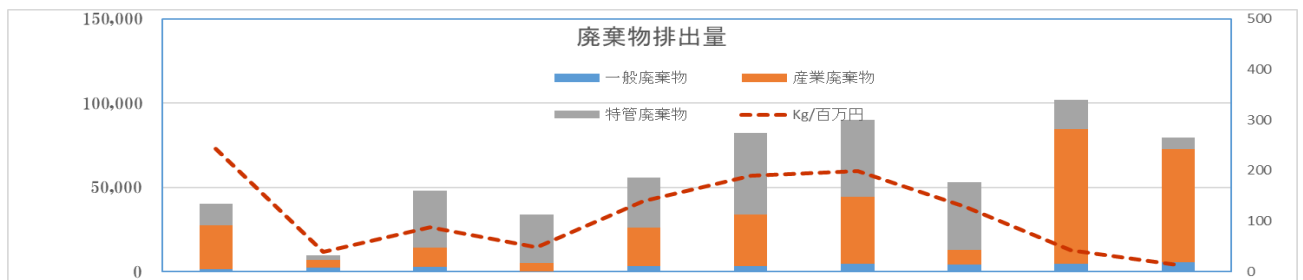
5. 環境目標と実績の推移



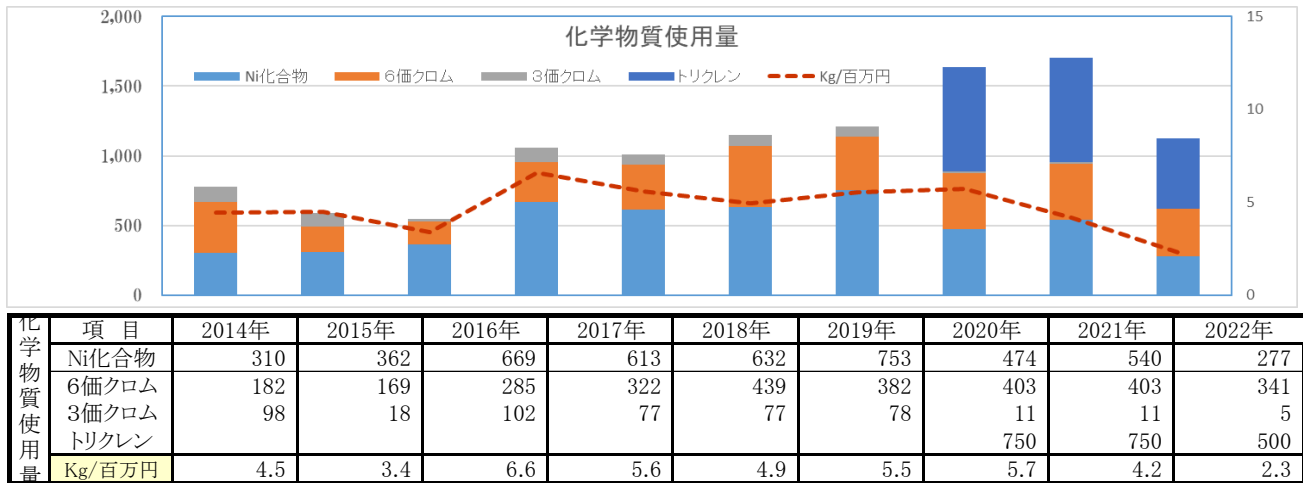
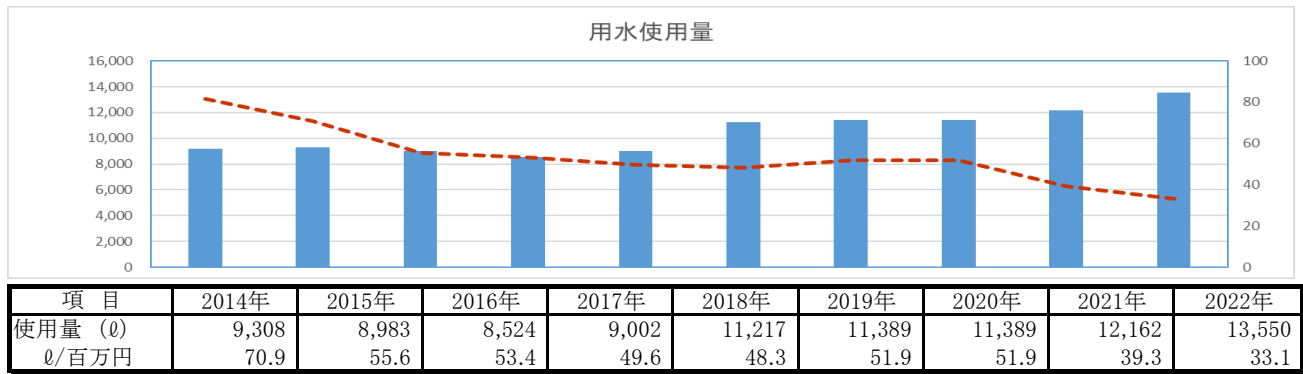
項目	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
排出量(kg)	421,903	436,923	412,919	352,303	443,963	511,004	500,042	611,107	614,578
kg-CO2/百万円	3,213	2,702	2,586	1,941	1,910	2,328	1,617	1,492	1,263
電力(kwh)	403,270	437,277	413,511	405,001	413,295	488,972	486,647	532,622	525,611
ガソリン(ℓ)	5,871	7,648	7,648	7,852	9,591.1	7,609.4	5,748.5	6,318.3	7,024.63
軽油(ℓ)	3,278	3,710	3,497	3,964	3,970	6,762	9,023	10,307	10,186
A重油	65,040	62,390	59,407	59,570	85,490	78,477	88,305	105,628	107,684
灯油(ℓ)	15,725	16,322	14,383	14,067	13,208	12,509	11,280	11,400	12,507
LPG(kg)	253.5	247.3	340.7	416.1	367.3	430.0	1.5	263.0	313.3



項目	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
使用量計	403,270	437,277	413,511	405,001	413,295	488,972	486,647	532,622	525,611
kWh/百万円	3,071	2,704	2,589	2,232	1,778	2,228	1,574	1,301	1,080



項目	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
一般廃棄物	2,205	2,806	0	3,295	3,340	4,516	4,000	4,850	5,610
産業廃棄物	4,989	11,520	5,300	22,960	30,490	39,810	9,078	79,699	67,250
特管廃棄物	2,700	33,540	28,410	29,390	48,440	45,730	39,820	17,448	6,780
Kg/百万円	39.7	88.5	48.0	140.0	189.4	198.7	128.8	42.6	13.9



《取組みの結果と効果》

1. 二酸化炭素排出量

電力使用量を中心とした省エネ活動で大幅に削減できた。その後の生産量の伸び及び製品の変化に対して、も継続的な活動の推進で総排出量は増加傾向にあるが、抑制できている。今後、太陽光発電システムの導入を計画しており、排出量の抑制とピークカットを図る。

2. 廃棄物排出量

生産量の増加に伴い、品質維持のために排出量は増加している。今後も見直しと改善を進めて2013年度の実績以下をキープする。

3. 用水使用量

製品品質維持のために精算表・製品の変化で使用量は増加しているが、原単位では大きく改善している。今後も効率的な使用に努める。

4. 化学物質使用量

製品品質維持と安定化のために生産量の増加で使用量も増加の傾向。継続した監視と使用量の削減に務める。

6. 活動の評価、次年度の取組

◎よくできた ○まあできた △あまりできなかった ×全くできなかった -対象外

	活動計画	評価	取組の結果	次年度の取組
CO ₂ 排出量削減	1.光熱費の削減 ・ボイラーの重油使用量の削減 ・使用しない部屋等の消灯/消し忘れ ・エアコンの設定温度管理の徹底 ・デマンドコントローラーの有効活用 ・廃棄ファン昼間/夜間/休日の管理 ・製造工程の不良削減(数値目標)	○ ○ ○ ○ ○ ○	生産量の増加で二酸化炭素の排出量は増加したが、電力及び化石燃料の使用効率はUPした。	・自家消費型太陽光発電システムを導入して電力消費約20%削減する。 ・省エネタイプの照明への切替え ・エコドライブ10の実施(急の付く運転禁止) ・使用量、使用料金の把握と掲示 ・室温の適正化服装での調整
廃棄物削減	2.廃酸/廃アルカリの削減 ・各層のメッキ液管理の徹底 ・製造工程の不良削減	◎ ○	品質を維持しながら効率的な使用ができた。	・両面コピー、コピー枚数の削減 ・電子帳票化の推進
用水の削減	3.上水使用量の削減 ・バルブ/配管の漏洩有無の定期点検 ・節水の徹底(流し放しにしない) ・製造工程の不良低減	○ ○ ○	生産量の増加しているが使用量は昨年と同等、効率的な使用で目標を達成した。	昨年度同様に20m ³ /百万円を目標に削減する。 ・節水ラベルの貼付
化学物質	4.酸/アルカリ使用量の削減 ・顧客要求よ危険性の把握	○	有害化学物質の知識を深め、顧客要求に答えることができた。	顧客並びに環境負荷低減の要求事項に対応を強化する。
安全衛生	5.安全衛生活動 ・保護具着用の徹底 ・危険個所の抽出と保全計画の策定	◎ △	従業員の安全意識の定着が図れた。	安全衛生活動活動計画を立案して、実行する。
作業環境	6.工場美化の推進 ・春/秋の工場内の一斉清掃 ・2Sから活動計画の作成と実施	- -	5/13春の一斉清掃実施 9月に実施予定	5S活動計画を立案して、実行する。
その他				

【活動の評価と今後の取組み】

環境負荷の低減活動(効率化)は進んでいる。更なる改善案の抽出と安全衛生、5S活動及び品質改善活動と合わせて推進する。

7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価

当社の企業活動に伴い適用される環境関連法規等は、下記一覧の通りです

注：〔○遵守 △修正 ×改善要 -今期対象外〕

法規制等の名称	該当する要求事項	遵守確認
廃棄物処理法	・一般廃棄物及び産業(特管)廃棄物の保管・運搬・処分の委託	○
	・管理票(マニフェスト)の発行/運用及び集計と報告	○
大気汚染防止法	・特定施設/ボイラーの設置届出	○
	・廃室基準の遵守(検査と記録の保存)	○
水質汚濁防止法	・特定施設の届出/公害防止管理者水質2種〈有効期限〉	○
	・定期水質検査と記録の保存	○
毒劇物取締り法	・毒物取り扱い責任者資格及び設置届	○
	・表示及び使用/保管量の記録、漏洩/盗難の防止処置(鍵付保管)	○
化学物質の管理 (PRTR指定物質)	・有害化学物質管理者の届出と表示/安全管理	○
	・対象物質の使用量把握と購入/保管/廃棄の管理	○
フロン排出抑制法	・簡易点検、フロン使用機器廃棄時の回収(破壊確認)	○
浄化槽法	・定期点検(年1回)、保守点検の実施	-
下水道法	・使用開始/停止届	○
公害防止組織法	・公害防止統括者の選任と届出	○
消防法	・灯油/重油貯蔵届出及び設備の定期点検	○
	・表示板/防油堤の設置、指定量管理	○

※騒音/振動規制法、佐久市条例は指定地区対象外

※ 順守確認日 令和4年8月25日

違反、訴訟の有無

管理責任者が中心となり法規制等の順守状況についてチェックを行い、現在及び過去3年間問題がないことを確認しました。関連機関・地域住民からの苦情はありません。資格取得者の研修と増員、社内教育の実施などで、より信頼性の向上に努めます。

8. 代表者による全体の評価及び見直しと指示

2023年度の活動評価

生産量の増加で二酸化炭素排出量が増加しているが、目標とした項目は達成しており、環境負荷低減のための効率化ができた。

2024年度の活動計画と指示

これまでではできることから進め、環境負荷に対する効率も向上しているが、基本的な取組みを全員で継続する。

- 1)電力使用量の削減のために太陽光発電システムの導入を推進して、使用量の削減ピークカットを図る。

SDGs/ゼロカーボンへの取組み

長期的な取組みとしてのSDGs及びゼロカーボンへの取組み方を学び、情報収集と自社に合った取組みを推進する。

9. 活動事例

2023年8月 太陽光発電システム増設